

# 産業建設常任委員会

## 質問

三俣振興対策における街なみ環境整備事業の今後の見通しと、修景整備事業の支援策は早期に実施できないか。

## 町長答弁

「街なみ環境整備事業方針」の国の承認と地元との協定の締結、計画の国との協議を得て、道路等の整備と、住民等が行う外壁等の事業を実施する。6月末には国との協議、7月には事業着手に向け整備事業の調査設計ができるものと見込んでいる。そば栽培、わさびの栽培の実施は難しい。

## 質問

水洗化率と三俣・二居地区下水道処理形態と地元要望にどう

応えるのか。

## 町長答弁

水洗化率は82・7%、三俣地内では特定環境保全公共下水道の整備方針を表明してきたが、早期要望にも関わらず河川区域も決まらず護岸整備計画も進まない状態が続いている。この間財政状態も厳しさが増し、下水道の未整備地区については、再検討せざるを得ない。公共下水道方式と合併浄化槽方式とを比較検討して、地元説明会で処理方式を決定したい。

## 質問

バイオマスタウン構想について、近隣市町村並びに民間計画とのかわりに対応は。

## 町長答弁

湯沢町バイオマスタウン構想は、昨年に国の認定を受け、ようやく骨子、基本構想がまとまり、民間主体にできるものから進めたい。周辺市町村と連携して何が協力できるか協議したい。木質固形燃料化事業については、十日町市など民間ペレット工場に間伐材の供給など協力して、

利用することが賢明である。

## 質問

一般家庭のデイスポーター導入への補助制度はあるのか。

## 町長答弁

直接投入型デイスポーターの導入は一般家庭のみとして、松川・土樽処理区から導入し検証した上で浅貝、湯沢処理区へと拡大していきたい。設置費用の補助は行わず、所用の措置を講じた上で町民に周知、啓発を図った後に導入する予定である。

## 質問

バイオマスタウン構想にある資源ごみのリサイクル化、生ごみの堆肥化との基本的な考え方は何か。

## 町長答弁

資源の再利用や廃棄物の減量化を図る意味でも生ごみのリサイクル化は非常に重要であると考えている。町の構想はバイオマス施設で電気や熱エネルギーを採り、その後発酵残渣を堆肥に利用する計画である。

## 質問

農業と観光の更なる連携とは、どのようなことを目指すのか。

## 町長答弁

10月からの「新潟DCキャンペーン」に全国JRGグループと地方行政、地元観光関連事業者が一体となって、いがたの「食」を全国に売り出し誘客につなげる。雪国観光圏の計画でも、「地産地消」や「農と観光の連携」にも期待している。昨年生まれの「越後お発ち飯」は、加盟店が18軒、火坂雅志先生にも食べて頂き好評でした。新しい分野に観光を介して、湯沢の食材の素晴らしさを広めて頂きたい。

## 質問

国道17号線新三国トンネル早期開削と温泉通りの電線地中化、並びに松川橋架け替えと原新田・宮林地区の県道拡幅要望の今後は。

## 町長答弁

新三国トンネルの早期開削は、20年度予算に2億2千万円が計上、12月には、みなかみ町で、国土交通省、財務省、地元選出国會議員に要望してきた。今後もみなかみ町と連携して早期実現に向け、積極的に行っていく

たい。

温泉通りの電線類地中化について、今後は電気通信事業者や交通管理者などからなる協議会を設立し、地元事業協同組合に協力して、この事業の推進に向け積極的に関わっていきたい。原新田・宮林地区の拡幅には、毎年、他の県道要望項目と合わせて、機会あるごとに要望活動を行っている。松川橋には、県の土木部長や都市局長等管内視察時に架け替えの必要性を説明し、新規要望をしている。



温泉通りの電線地中化事業の今後は

代

表

質

問